



2023年度北海道支部 秋の研究会のご報告

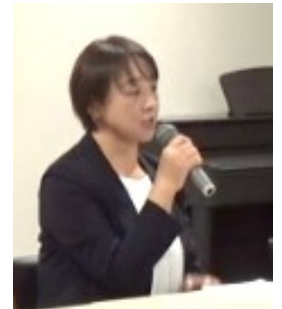


2023年10月14日(土)秋の研究会を 函館とWebで ハイブリッド開催しました！

当日は、函館会場は60名以上、Webは54名の方が参加くださいました。講師の先生方の様々な活動や取組みを教えていただき、たくさんの学びと気づきを得ました。地域のどのような立場、職種にも“暮らしの中の看取り”を支える役割と共通点があることに気づき、どの地域でも看取りの文化をチームで築いていける可能性を感じました。

◆第一部 特別講演◆

座長：福德雅章（函館おしま病院 名誉院長）
演題：「緩和ケアをホスピスから地域へ
～現状確認ツール IMADOKOを
もちいて市民とともに考える看取り～」
演者：大井裕子
（小金井ファミリークリニック在宅診療部
医師/NPO法人くみサポ 共同代表理事）



◆第二部 シンポジウム◆

「看取りの文化を地域で育む」

座長：川口篤也
（道南勤医協函館稜北病院 副院長）
演者1：筒井章順（湯川寺 副住職）
「行きつけのお寺」
演者2：大島亜希
（訪問看護ステーション西堀 所長）
「ありのままに寄り添う
訪問看護師が始める ACP」
演者3：高橋修（函館動画工房 代表）
「別れの悲しみを癒す
エンディングムービー」



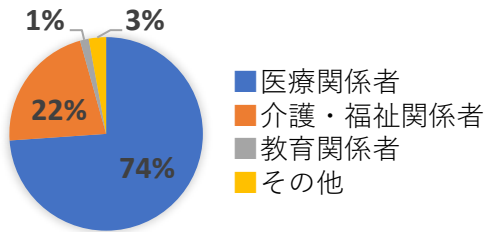
日本死の臨床研究会北海道支部 2023年度秋の研究会in函館 アンケート結果

申込数：135（会場71、Web64）
参加者数：114（会場60以上？、Web54）
回答数：74（回答率64.9%）



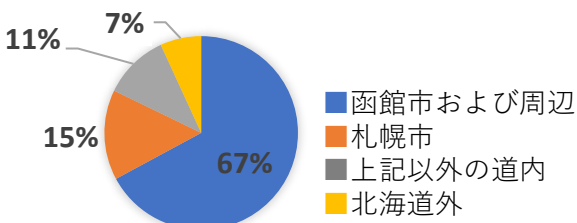
Q1.ご参加された方は？（回答数：69）

- ・医師：6（8.7%）
- ・歯科医師：0
- ・薬剤師：1（1.7%）
- ・保健師：1（1.7%）
- ・看護師：40（58.0%）
- ・リハビリ職：2(作業療法士)（3.0%）
- ・その他医療職：1(鍼灸師)（1.7%）
- ・社会福祉士：1（1.7%）
- ・介護支援専門員：7（10.1%）
- ・介護福祉士：7（10.1%）
- ・教員：1(看護大学教員)（1.7%）
- ・患者会：1（1.7%）
- ・学生：0
- ・その他：1(医療事務)（1.7%）



Q2.どちらからのご参加ですか？（回答数：73）

- ・函館市および周辺：49（67.1%）
- ・札幌市：11（15.1%）
- ・函館札幌市以外の道内：8（11%）
- ・北海道外：5（6.8%）

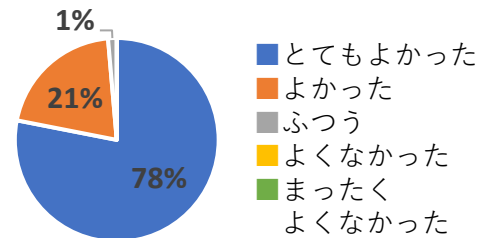


Q3.あなたは死の臨床研究会の会員ですか？（回答数：71）

- ・支部会員または登録会員：14（19.7%）
- ・非会員：54（76.1%）
- ・入会検討中：1（1.4%）

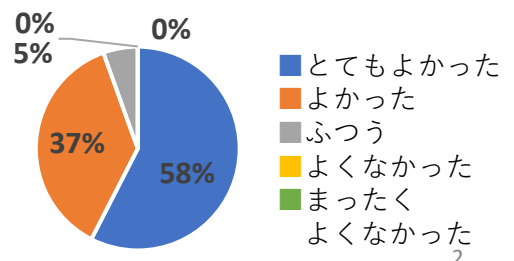
Q4.特別講演はいかがでしたか？（回答数：73）

- ・とてもよかった：57（78.1%）
- ・よかった：15（20.5%）
- ・ふつう：1（1.4%）
- ・よくなかった：0
- ・まったくよくなかった：0



Q5.シンポジウムはいかがでしたか？（回答数：73）

- ・とてもよかった：42（57.5%）
- ・よかった：27（37.0%）
- ・ふつう：4（5.5%）
- ・よくなかった：0
- ・まったくよくなかった：0



Q.特別講演へのご意見ご感想

・そうそう！それぞれ！と、PCの前で叫びました。現場のニーズからイマドコができた経緯には共感しなかったです。

・サテライトとして薬局がたくさん利用されていて、嬉しく思います。

・IMADOKOを利用したいと思いました

・現状確認ツールは当院でも使っていきたいツールだと思いました。

・死へのプロセスを患者家族のみならず、医療者側も理解していくことは大切なことと感じました。

・食に対する取り組みに感銘を受けました。出来る範囲で実践していきたいと感じました。

・ケアマネジャーの仕事をしていますが、今後、看取りの利用者様担当することがあると思います。IMADOKOを用いて利用者、ご家族にお話しできるように学びたいです。

・看取りを当事者だけでなく市民レベルで考えられ、死というものがいつもそこになる社会になれるといいなと思います。



Q.シンポジウムへのご意見ご感想

・地域の中にいきつけのお寺があったらいいなあと日頃から思っています。それを目指して活動されているご住職のお話を聴かせていただけて、感銘を受けました。

・医療、介護以外の方が多方面からのACP参考になりました。

・エンディングムービー、今はYouTubeなどでも動画作成してあげている方もいらっしゃると思います。お別れは辛いですが、その悲しみを癒すものがあるといいなあとと思います。

・親近者の生い立ちなどのお話が本人の声と表情で残るのはとても良いと思います。私も残したいと思いました。

・同じ訪問看護師として共感できる部分があり大変良かったです。

・それぞれの演者の方々の立場から死の向き合い方があり、興味深くきかせていただいた。点と点がつながり、地域で看取りについて考える日が来ることを願っています。



皆さんは自分がもしもの時に大切にしている事や希望、どのような医療やケアを望むか前もって考え、家族や信頼できる人と共に話し合いをしたことはありますか？

